

国際交流員ザブリナー・リンのコラム

ベルリンの壁

壁ができた背景

皆さんは昔ドイツが二つの国に分かれていたことを知っていますか？「ベルリンの壁」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。なぜベルリンの壁が作られたのか、誰が作ったのか、それを知るため、今回は当時のドイツの歴史を紹介しましょう。

ある日、ドイツの首都ベルリンに巨大な壁が作られました。壁が一つの街を二つに分け隔て、親戚や友達に自由に会えなくなったという時代でした。今では想像できない話でしょうか？映画の世界みたいですよ。東西ベルリンの境界線の封鎖とともに、ベルリンの壁の建設が1961年8月から始まりました。

壁の建設の大きな原因となったものが第二次世界大戦です。第二次世界大戦敗戦後、ドイツとその首都ベルリンはアメリカ・イギリス・フランスそしてソビエト連邦に占領されました。そして4年後には、ドイツ連邦共和国（西ドイツ）とドイツ民主共和国（東ドイツ）という二つの国が成立しました。



kmありました。日本でいうと、東京から長野までの距離とほぼ同じです。人が乗り越えられないように壁の高さは3mあり、周りには石で作ったバリケードもあり、街を横切る有刺鉄線も張ってありました。

でも、誰が何のためにベルリンの壁を作ったのでしょうか。それは、東ドイツが大きく関係しています。東ドイツの経済状態は1950年から1960年にかけてどんどん悪化していき、東ドイツ政府は自国の存在が脅かされていると感じていました。毎日のように市民が西ドイツへと去って行きました。総数は約200万人にものぼったそうで



す。東ドイツ政府は、国家機密として、国民が流出するの防ぐため、巨大な壁を作り、物理的に西ドイツへ逃げられなくするという計画を立てました。この巨大な壁がベルリンの壁です。

政府の誤発表で崩れた壁

結局、1989年から東ドイツの市民は反政府デモをするようになり、次第に参加者も増え、デモは拡大していきました。そしてついに11月9日夜、東ドイツ市民に対する事実上の旅行自由化と受け取れる表現で政府が誤発表をしたことをきっかけに、翌日11月10日ついにベルリンの壁が崩壊し、東西ドイツの国境が開かれました。

現在は、お土産としてこのベルリン壁の欠片を買うこともできますし、もちろん記念として現地に残っている壁もあります。ベルリンの壁は、東ドイツに住む人々の生活に多大な影響を与えました。当時のベルリンでの生活はどのようなものだったのか、今月のびっくりン箱では、東西分裂下の東ドイツでの生活について、茨城県守谷市国際交流員のベッカーさんをお招きしてお話していただきます。

引用：ドイツ連邦共和国大使館・総領事館パンフレット「Berliner Mauer」
写真出展元：www.mauer.jp

国際交流員「ツバネ」の箱 第9回

東ドイツから見たドイツ統一

皆さんは、ベルリンの壁が壊された時のテレビ映像を覚えているでしょうか。ドイツが一つの国となって大分時間が経ちましたが、今でも西・東という意識は残っています。

今回は、昔の東ドイツの生活や東ドイツから見たドイツ統一について紹介します。私は西ドイツ出身なので、東ドイツ出身の茨城県守谷市の国際交流員ベッカー・ヨーク氏にお話ししていただきます。特別な機会ですので、ぜひ東ドイツに関することをいろいろ聞いてください！

■日時 2月8日(金)
午後6時30分～8時

■場所

石橋公民館 201会議室
(下野市石橋416番地)

■参加費 無料

■申し込み 不要(会場入り口に受付簿を置いておきますので、ご来場された際にお名前を書いていただければ幸いです。)

■問い合わせ先

生活安全課 ☎(40)5555
✉sai.shimotsuke@gmail.com

携帯電話
市ホームページ



■人口と世帯(1月1日現在)

人口/60,302人(+32)、男性/30,036人(+24)、女性/30,266人(+8)、世帯数/22,055世帯(+21)

TAKE FREE

広報しもつけを設置協力いただけるコンビニエンスストアを募集しています。ご協力いただける場合は総合政策課☎0285(40)5550 情報広報グループまでご連絡ください。